

校長室だより

No. 9

平成30年6月1日(金)

# 強く やさしく

六ツ美中部小学校校長

かとうよしかず  
加藤 嘉一

## 体験・共生の経験が大切な時代へ - 田植え・体育祭から -

AI（人工知能）が、人間に代わって多くの仕事を担ってくれる時代が来るといわれています。AIの進化・発展により、社会がどのように豊かに変化していくかを想像している人たちがいる一方、人間とAIと共存する社会はどうあるとよいかを議論する番組・読み物をよく目にするようになりました。

教育の世界も、新学習指導要領で人工知能の存在を取り上げています。

### 【小学校学習指導要領（平成29年度告示）解説 総則編

#### 第1章 総説 1 改訂の経緯及び基本方針 (1) 改訂の経緯 より】

<略> 人工知能がどれだけ進化し思考できるようになったとしても、その思考の目的を与えたり、目的のよさ・正しさ・美しさを判断したりできるのは人間の最も大きな強みであるということの再認識につながっている。 <略>

子供たちが社会を担う年齢になったとき、AIなど機器等の発達と共存しながら、「思考の目的のよさ・正しさ・美しさ」で判断できるようになってほしいと思います。ではAIを活用する人の判断のもととなるものは、どうつくられるか。成長していく過程で受ける倫理観や価値観はもちろんのこと、わたしは、子供のころに体験で得る感覚がおおいに影響すると思っています。知識・情報は、インターネット等で簡単に手に入ります。しかし、実際にやってみて得られる感覚がたくさんあります。その感覚がもとになって何がよいのか、正しいのか、美しいのかを判断していくと思うのです。これからの学校教育でこれまで以上に大切だと考えるのは、体験と共生の経験ではないかと思っています。



【5月28日(火)  
2・5年田植え時  
どろんこ体験】

何百年もすべて手作業でやっていた米作りが、50年くらいの間で、一気に大型機械での作業に移行し、圃場整備、品種改良、農薬の進歩、環境への配慮など、農業は大変革を起こしてきました。その価値は、実際に田植え、稲刈りの手作業を体験しないとわかりません。代かきされた田んぼに入って、土のぬるぬるした感覚の中で足をとられながら作業する大変さ、長い作業をすると体のあちらこちらが痛くなる感覚、

生き物もそこにはいることを実際に目にすること。諸感覚を使った感覚が記憶に残ります。

今回も二村さん、成瀬さんらに大変お世話になりました。農家でも、こうした手植えや稲刈りを経験した方が減ってきたそうです。本校は、貴重な体験を提供していただいています。この経験で得た感覚と、教室で改めて得る知識とを行き来しながらつないで考えていくことは、資料やインターネットで調べて知識としてもつだけの場合と比べ、学びの深さに違いが出ます。



【5月28日(火)2・5年田植え体験】

将来大人になって、二村さん、成瀬さんらからお聞きした話を思い出すこともあるでしょう。そのときに人々の様々な仕事や苦勞について、想像しやすくなります。

先日の体育祭も体験・共生の経験の大切な一つでした。今回もよかったと思うものの一つが、「決戦 六ツ美が原」(帽子とり・騎馬戦)でした。予行演習



【5月26日(土)体育祭 騎馬戦の風景】

では、騎馬戦が大将戦になり、差し違えかと思うような接戦で白組大将が勝利しました。本番で雪辱をはらしたかった赤組大将は、騎馬の数で有利な状況でしたが一騎打ちを望み、大接戦で勝利しました。退場後、自陣に向かって「今までついてきてくれてありがとう。来年1組になったらがんばってください。」とあいさつをした白組大将は涙で目をはらしていました。このとき、そこにしかない連帯と大将への敬意の空気が流れていました。つい一昨日には、2年生の男子がわたしに

「校長先生、おれ来年も1組がいい。白組になって永太君(大将)の敵をとる。」と言ってきました。6年生への敬意と仲間を大切に思う誇りが生まれていました。5年生は、7月に山の学習があります。これも家庭では経験できない仲間との貴重な野外体験です。これからの学校教育では、行事はもちろん、授業でも体験・共生の経験を意図していくことがますます重要になると考えています。

#### 【二村誓也さんの偉業 麦作で農林水産大臣賞受賞】

今回2・5年生の田植え、稲刈り体験をお世話してくださっている二村さんは、昨年度優秀な麦作農家をたたえる「全国麦作共励会中央表彰式」で最優秀賞を受賞されています。生産技術・経営改善面が先進的で他の模範となる農家として表彰されました。